

	<h1>七松小学校</h1> <h2>学校だより</h2>	<p>令和3年度 1月号</p> <p>尼崎市立七松小学校 校長 江上佳宏</p>
--	-------------------------------	---

☆ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>

新しい年を迎えて

～夢や希望をもち、実現に向け挑戦する～



新たな年を迎え、保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、関係するすべての皆様に対し、謹んであいさつを申し上げます。令和4年（2022年）が皆様にとりまして、幸多き年になりますよう祈念いたします。

私は小学生の頃、夢も希望もない子どもでした。今振り返れば、父が大変勉強や進学に厳しく、テストの点が悪ければ、とても私を叱りました。子ども心に、何も悪いことをしていないのに、テストが悪かったら、なぜ、父はひどく怒るのが疑問でした。父は、私を有名私立大学に進学させたかったのです。小学校低学年から、学期末になると、たくさんのテストが返され、親に見せられないものは、学校の机の中にしばらく置いていました。しかし、担任の先生に「期末懇談で家の人に見てもらってから整理しなさい。」と言われ、時にはテストを石で丸めて池に沈めたり、山に埋めたりしました。

また、中学生の時は80点や90点のテストを持ち帰っても、親に見せると、まず聞かれたのは、「平均点は何点?」。平均点はその近くだと、褒められることなく、「なんや。」とまで言われました。

また、中学校卒業時の高校入試では、第2志望の併願校も失敗し、両親に心配をかけたことを覚えています。

私が小学校教師を志すようになったのは、高等学校3年生でした。担任の先生の進路指導によるものです。その時は、小学校教師になるにしても、自分の成績を見て本当になれるのか甚だ疑問であり、ただでさえ勉強ができないのに、自分が学校の先生に向いているなんて今まで全く考えたことも人から言われたこともなかったのです。

そして、大学に入るのに1年浪人。大学卒業から教員採用試験合格まで2年。私は、ストレートに進級・進学した同級生より、3年間寄り道をしました。しかしこの3年間の寄り道が、大変充実していたのも、自分が小学校の教師になるという夢に挑戦し続けたことだと思っています。

教員になり、33年が過ぎますが、正直、職務上苦しいことも多々ありましたが、初心忘るべからずで、教師になったという夢が実現した時の思いが、今も原動力となっています。新年から、私事を長々と書いてしまいましたが、我ながら感謝し、尊敬している、高等学校の担任の先生には、自分のよさを見つけてくださり、私を伸ばしてくださったことを心から感謝しています。

新しい年を迎えるにあたり、教師や保護者様には、がんばったことやよさを子どもに伝え、自尊感情を高めていただきたい。子どもたちには、夢や希望を考えてもらいたい。そして、その夢や希望に向かって挑戦してほしいと願っています。

3学期の学校行事も、感染防止に努めながら行っていきたいと考えます。子ども、ご家族、地域の皆様、教職員の健康や生命を第一義に判断してまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。